

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		中京大学		設置者名	学校法人 梅村学園			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成20年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業生数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
文学部	日本文学科	75人	中一種免(国語)	平成15年度	84人	21人	17人	8人
			高一種免(国語)	平成15年度			19人	
			高一種免(書道)	平成15年度			5人	
	言語表現学科	75人	中一種免(国語)	平成15年度	80人	7人	4人	2人
			高一種免(国語)	平成15年度			5人	
			高一種免(書道)	平成15年度			1人	
国際英語学部	国際英語学科	80人	中一種免(英語)	平成14年度	103人	20人	8人	2人
			高一種免(英語)	平成14年度			20人	
	英米文化学科	80人	中一種免(英語)	平成14年度	91人	14人	14人	5人
			高一種免(英語)	平成14年度			14人	
国際教養学部	国際教養学科	100人	中一種免(社会)	平成20年度				
			中一種免(中国語)	平成20年度				
			高一種免(地理歴史)	平成20年度				
			高一種免(公民)	平成20年度				
			高一種免(中国語)	平成20年度				
心理学部	心理学科	160人	中一種免(社会)	平成12年度	197人	9人	3人	1人
			高一種免(公民)	平成12年度			9人	
			特支一種免(知)	平成20年度			4人	
現代社会学部	現代社会学科	250人	中一種免(社会)	平成19年度				
			高一種免(地理歴史)	平成19年度				
			高一種免(公民)	平成19年度				
			高一種免(福祉)	平成19年度				
法学部	法律学科	315人	中一種免(社会)	平成12年度	318人	8人	5人	0人
			高一種免(地理歴史)	平成12年度			8人	
			高一種免(公民)	平成12年度			6人	
総合政策学部	総合政策学科	200人	中一種免(社会)	平成17年度	210人	3人	2人	0人
			高一種免(地理歴史)	平成17年度			3人	
			高一種免(公民)	平成17年度			3人	
経済学部	経済学科	315人	中一種免(社会)	平成12年度	329人	12人	7人	4人
			高一種免(地理歴史)	平成12年度			11人	
			高一種免(公民)	平成12年度			6人	
			高一種免(商業)	平成17年度			1人	
経営学部	経営学科	315人	中一種免(社会)	平成18年度	359人	12人		3人
			高一種免(地理歴史)	平成18年度				
			高一種免(公民)	平成18年度				
			高一種免(商業)	平成12年度			12人	
情報理工学部	情報システム工学科	100人	中一種免(数学)	平成18年度				
			高一種免(数学)	平成18年度				
			高一種免(情報)	平成18年度				
	情報知能学科	60人	中一種免(数学)	平成18年度				
			高一種免(数学)	平成18年度				
			高一種免(情報)	平成18年度				

情報理工学部	情報メディア工学科	100人	中一種免(数学)	平成18年度				
			高一種免(数学)	平成18年度				
			高一種免(情報)	平成18年度				
	機械情報工学科	100人	中一種免(数学)	平成20年度				
			高一種免(数学)	平成20年度				
			高一種免(情報)	平成20年度				
体育学部	体育科学科	375人	中一種免(保健体育)	平成12年度	384人	245人	241人	111人
			高一種免(保健体育)	平成12年度			245人	
	健康科学科	90人	中一種免(保健体育)	平成12年度	107人	71人	68人	24人
			高一種免(保健体育)	平成12年度			71人	
入学定員合計		2,790人	合計		2,262人	422人	812人	160人

大学名	中京大学(大学院)	設置者名	学校法人 梅村学園
-----	-----------	------	-----------

学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成20年度)			
研究科	専攻等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
文学研究科	日本文学・日本語文化専攻	5人	中専修免(国語)	平成4年度	1人	1人	1人	1人
			高専修免(国語)	平成2年度			1人	
			高専修免(書道)	平成6年度			0人	
国際英語学研究科	国際英語学専攻	5人	中専修免(英語)	平成18年度	2人	2人	2人	1人
			高専修免(英語)	平成18年度			2人	
	英米文化学専攻	3人	中専修免(英語)	平成18年度	0人	0人	0人	0人
			高専修免(英語)	平成18年度			0人	
心理学研究科	実験・応用心理学	7人	高専修免(公民)	平成14年度	0人	0人	0人	0人
	臨床・発達心理学	23人	高専修免(公民)	平成14年度	14人	0人	0人	0人
社会学研究科	社会学専攻	5人	中専修免(社会)	平成19年度	1人	0人	0人	0人
			高専修免(公民)	平成19年度			0人	
			高専修免(福祉)	平成19年度			0人	
法学研究科	法律学専攻	10人	中専修免(社会)	平成4年度	5人	2人	2人	1人
			高専修免(公民)	平成6年度			2人	
経済学研究科	経済学専攻	5人	中専修免(社会)	平成4年度	5人	0人	0人	0人
			高専修免(公民)	平成6年度			0人	
	総合政策学専攻	5人	中専修免(社会)	平成21年度				
			高専修免(公民)	平成21年度				
経営学研究科	経営学専攻	15人	高専修免(商業)	平成8年度	6人	0人	0人	0人
情報科学研究科	情報科学専攻	12人	中専修免(数学)	平成13年度	9人	0人	0人	0人
			高専修免(数学)	平成13年度			0人	
			高専修免(情報)	平成13年度			0人	
	認知科学専攻	8人	高専修免(情報)	平成13年度	5人	0人	0人	0人
	メディア科学専攻	10人	高専修免(情報)	平成16年度	5人	0人	0人	0人
体育学研究科	体育学専攻	12人	中専修免(保健体育)	平成4年度	18人	9人	8人	0人
			高専修免(保健体育)	平成2年度			9人	
入学定員合計		2,915人	合計		71人	14人	27人	3人

備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学部・学科等の名称等」欄は、平成21年4月1日現在の名称・定員である。</li> <li>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄には各学科等の実人数を、「個別」欄には各学科等内の教職課程ごとの人数である。</li> </ul>
----	--

# 実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成21年6月4日（木）

実地視察大学：中京大学

実地視察委員：渋谷治美委員、田村哲夫委員

## ■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

### <状況>

- ・ 2キャンパス（名古屋・豊田）にわたって、大学においては11学部17学科、大学院においては9研究科14専攻で教員養成を行っている。
- ・ 特に体育学部は全国有数の体育教員養成校となっており、多数の卒業生を教員として教育現場に輩出している。

### <講評>

- ・ 教員養成に関する教育課程、教員組織等については、概ね基準を満たしてはいるが、十分とは言えない状況である。
- ・ 県内における保健体育科の教員採用状況は非常に高く、高く評価することができる。

## ■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

### <状況>

- ・ 情報化、国際化など、変化の激しい現代社会において、これに対応して教員に課せられる責任を自覚しつつ、広く深い学問的教養を基礎として、未来世代に「学ぶことの喜びと楽しみ」を育てていく人材の育成を目指している。

### <講評>

- ・ 教員養成に対する理念や構想が明確に示されていないため、それを明確化していただきたい。また、それを明確化・具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるように、今後も努めていただきたい。

## ■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

### <講評>

- ・ 授業科目「教職入門」について、各科目に含めることが必要な事項である「研修、サービス及び身分保障等」及び「進路指導に資する各種の機会の提供等」がどの授業において取り扱われるのかが不明であるため、確認することができるようにシラバスを修正してほしい。
- ・ 授業科目「教育課程論」について、各科目に含めることが必要な事項である「教育課程の意義及び編成の方法」がどの授業において取り扱われるのかが不明であるため、確認することができるようにシラバスを修正してほしい。
- ・ 授業科目「教育方法論」について、各科目に含めることが必要な事項である「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）」がどの授業において取り扱われるのかが不明であるため、確認することができるようにシラバスを修正してほ

しい。

・授業科目「生徒指導・進路指導の方法」について、各科目に含めることが必要な事項である「生徒指導の理論及び方法」及び「進路指導の理論及び方法」がどの授業において取り扱われるのかが不明であるため、確認することができるようにシラバスを修正してほしい。

・「各教科の指導法」に該当する授業科目において、学習指導要領の内容に即し一般的包括的内容とする必要があるため、それを確認することができるようにシラバスを修正するとともに、テキストに学習指導要領を使用してほしい。

・「各教科の指導法」に該当する授業科目において、指導案の作成や模擬授業等がシラバスに記載されていないものが複数見受けられるが、実践的な指導力を身に付けるために、指導案の作成や模擬授業を行うことが望まれる。

・授業内容欄を「〇回～〇回」とまとめて記載しているシラバスについては、各回のキーワードを明記してほしい。

・「教職に関する科目」については、教育現場における教職経験を有する者を担当教員として充てるなどして、教授内容の充実を更に図ってほしい。

## ■ 教育実習の取組状況

<状況>

・学生本人の卒業校、附属学校、地元の教育委員会を通じて依頼している。

<講評>

・平成18年7月の中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」で示されたように、教育実習においては、課程認定大学と実習校の協力により、授業案を作成したり、教材研究の指導を行うなど、大学の教員と実習校の教員が連携して指導に当たる機会を積極的に取り入れることが必要である。また、実習実績の評価についても、適切な役割分担の下に、協働して行うことが適当であるが、その場合には、実習校により評価にばらつきが生じないように留意する必要がある。

・母校実習については、平成18年7月答申において、大学側の対応や評価の客観性の確保の点で課題も指摘されているため、できるだけ避ける方向で検討してほしい。

・「教育実習の実習期間・総時間数」の中学校教育実習について、3週間で160時間を確保することは非常に難しいと思料されるので、時間数軽減の検討をしてほしい。

・国際英語学部、文学部、法学部ではそれぞれ教育実習記録誌を毎年発行しているが、他の学部においても発行することを検討してほしい。

## ■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

<状況>

・愛知県教育委員会が実施している「学習チューター派遣事業（小中学校でのボランティア）」へ学生を登録させている。

・名古屋市教育委員会が実施している「ふれあいフレンド事業（小学校でのボランティア）」へ学生を登録させている。

<概要>

・学校現場に対するボランティア活動だけでなく、今後は地域社会の様々な活動

にも参画することを検討してほしい。

## ■ 教職指導及びその指導体制の状況

### <状況>

・名古屋と豊田の両キャンパス事務部門の教務課やキャリアセンターが、学生の教職履修、実習、教員採用試験対策などの教学サイドとは異なったレベルでの取り組みを展開している。さらに名古屋キャンパスには「教職センター」を設置し、文献、雑誌、コンピューターを備えて教学サイドから学生の利用の便を図っている。また、豊田キャンパスにおいては、教職志望学生の集うスペースを設置し、雑誌や情報を備えて、教員を目指す学生の相互援助や情報交換の場としている。

### <講評>

・学生サポートセンターの積極的な活動は評価したい。今後も大学事務局や大学教員との連携を密にはかってほしい。

## ■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

### <状況>

・教職課程の在り方と運営については、全学11学部からなる「教職課程委員会」が責任主体となって、教職課程の理念、態勢を検討、合議して決定、展開している。

## ■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

### <状況>

・学内施設・設備、教育機器等は、学生数の規模に応じて整備されている。